

指定管理者制度活用事業 評価シート

1. 基本事項

施設名称	川崎市市民ミュージアム	評価対象年度	令和元年度
事業者名	アクティオ・東急コミュニティー共同事業体 代表者 アクティオ株式会社 代表取締役社長 淡野 文孝 東京都目黒区東山1-5-4 KDX中目黒ビル6階 構成員 株式会社東急コミュニティー 代表取締役社長 雑賀 克英 東京都世田谷区用賀4-10-1	評価者	市民文化振興室長
指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日	所管課	市民文化局市民文化振興室

2. 事業実績

○前年と同様の取組 ●新規または前年から変更した取組

利用実績	<p><補足事項> 市民ミュージアムの被災について 10月12日の令和元年東日本台風により地階が浸水し、施設及び収蔵品に甚大な被害が発生した。これに伴い、市と指定管理者間において「川崎市市民ミュージアムの管理運営に関する基本協定書に係る覚書」(以下、「覚書」という。)を締結し、「川崎市市民ミュージアムの管理運営に関する基本協定書」に掲げる指定管理業務のうち、実施が困難なものについては、業務の全部又は一部を免除し、収蔵品レスキューを最優先で取組むこととした。これにより、令和元年10月12日までは通常の指定管理業務を実施したが、被災後の10月13日以降は、仮設電源設備の設置、収蔵庫内のアクセスの確保、冷凍コンテナの設置などの施設復旧作業、及び収蔵庫からの被災収蔵品の搬出、応急処置等の収蔵品レスキュー作業を実施した。</p>			
	令和元年度	平成30年度	平成29年度	
【総利用者数】	177,284人	302,999人	282,211人	
(1) 常設展示	54,025人	127,837人	123,249人	
(2) 企画展示 有料	35,781人	38,635人	49,219人	
無料	61,316人	89,243人	66,479人	
(3) 映像ホール 有料	3,196人	7,482人	8,909人	
無料	1,922人	5,054人	4,604人	
(4) ミニホール	725人	876人	1,255人	
(5) 館内イベント・講座等	4,726人	14,593人	12,971人	
(6) ミュージアムマイスター(映像)	1,437人	2,802人	3,597人	
(7) ミュージアムマイスター(図書)	10,104人	10,748人	7,693人	
(8) ミュージアムマイスター(閲覧)	19人	32人	27人	
(9) 研修室等利用者	605人	1,038人	1,062人	
(10) ミュージアムマイスター1	0人	3,179人	2,083人	
(11) ミュージアムマイスター2	0人	44人	0人	
(12) 館外展示・出張プログラム等	3,428人	1,436人	1,063人	
令和元年度	平成30年度	平成29年度		
【企画展示】	10事業 96,083人	21事業 133,315人	18事業 115,698人	
企画展	8事業 93,616人	17事業 127,878人	15事業 110,100人	
他団体の展示等	2事業 2,467人	4事業 5,437人	3事業 5,598人	
令和元年度	平成30年度	平成29年度		
【かわさき市美術展の応募数】	6部門 315点	6部門 231点	6部門 266点	
令和元年度	平成30年度	平成29年度		
【映画上映】	8事業 3,941人	16事業 9,243人	15事業 11,136人	
上映数・作品数	92回 77作品	173回 83作品	174回 96作品	
令和元年度	平成30年度	平成29年度		
【教育普及事業】	64講座 218回 21,680人	81講座 277回 11,320人	76講座 254回 10,143人	
社会科教育推進事業	47校(4,781人)	85校(9,390人)	88校	
ボランティア登録者数	49名	49名	43名	
収支実績	<p>(1) 収入 620,051千円 (前年: 514,937千円) (2) 支出 604,215千円 (前年: 490,237千円) (3) 収支差額 15,836千円 (前年: 24,700千円)</p>			
サービス向上の取組	<p>【地域との連携】 ●市民ミュージアムを含め9つの等々力緑地内施設関係者で構成し、月1回開催する「パルク・ド・トロキ会議」にて情報を共有することで施設の管理運営等に役立て、さらに他施設で開催する事業へも参加・協力するなど相互理解を深めた。なお、毎年等々力緑地で開催される中原区民祭は令和元年東日本台風の被害により中止となった。 ○7月に武蔵小杉駅近くで開催された「こすぎ盆踊り大会2019」にて、来場者がうちわを持ち歩くことによる告知効果を得ることを目的として、「なばたとしたか こびとつかんの世界展」、「妖怪/ヒト展」の告知うちわを各2,000枚、合計約4,000枚を配布した。</p> <p>【夏休み期間に合わせた開館延長】 ○昨年度好評だった、夏休み期間中の土曜日等に2時間の開館延長(計4日間、閉館17時を19時に変更)を行った。</p> <p>【ライブビューイングの開催】 ○応募者数多数により企画展関連イベントのトークショーへ会場に入場できなかった方にも参加してもらえるように、遠隔展示空間でライブビューイングを実施した。</p> <p>【その他】 ●地域事業者との関わりを重視し、「かわさき名産品」やフロンターレグッズ、川崎市社会福祉事業団の丘が制作した商品などをミュージアムショップで販売した。</p>			

3. 評価

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
利用者満足度・事業成果	利用者満足度	利用者満足度調査を適切に実施しているか	10	4 (H30: 4)	8
		利用者満足度は向上しているか			
		調査結果の分析を行い、満足度向上のための具体的な取組に反映しているか			
	事業成果	事業実施による成果の測定が適切に行われているか	8	4 (H30: 4)	6.4
		当初の事業目的を達成することができたか			
	(評価の理由)				
<p>【利用者満足度①－被災前】 ○窓口やご意見箱、企画展・常設展アンケートの実施により、利用者の満足度やニーズ、意見・要望などを把握している。窓口やご意見箱に寄せられた意見に対しては、館長及び部門長で対応を協議・検討し、企画展・常設展アンケートに関しては職員全員に回覧するとともに、必要に応じて朝礼で報告するなどして情報共有されている。また、寄せられた要望に対しては、下記のとおり対応可能なものは速やかに改善し、高い利用者満足度を獲得できるよう努めている。(対応具体例：タバコのおいしがエントランス扉から館内に入り込むため灰皿を撤去し禁煙化した等。) ○企画展アンケート(回答数4,502件)では、各企画展の「大変満足」「満足」の合計が平均で89%、常設展アンケートでは、「全体的な満足度」の項目で92%となり、概ね高水準を得ている。中でも岩合光昭の写真展「ねこづくし」は2,457件のアンケート回答があり、うち「大変満足」「満足」の割合が98%であり、特に満足度が高かった。</p> <p>【利用者満足度②－被災後】 ●被災後に実施した「かわさき市美術展」のアンケートでは、「大変満足」「満足」の合計が87%となり、前年度の63%を大きく上回った。</p> <p>【事業成果①－被災前】 ●9月までの累積利用者数は、前年度の約10,000人減であったが166,430人となり、前年度の年間総利用者数302,999人の過半数を超えている。その中で、国内外で高い評価を得ている岩合光昭の写真展「ねこづくし展」(入場者数29,023人)と、同時期に、親子向けの企画展として、市民ミュージアム所蔵の美術作品の中から、どうぶつが描かれた作品を様々な視点から紹介し、関連イベントとして館内での音楽コンサートを実施した「Zoo(ずーつ)とArt(あーと)色とカタチのどうぶつ展」(入場者数15,537人)が好評を得た。また、2006年の刊行以来、多くの人びとを惹きつけている、「こびとづかん」シリーズの原画やスケッチ、フィギュアなどを紹介した「なばたとしたかこびとづかんの世界展」(入場者数17,341人)と、同時期に「妖怪／ヒト展」(入場者数18,347人)を開催し館内でスタンプラリーを実施するなど、指定管理者ならではの時宜を得た企画や、工夫を凝らした取組、さらに効果的な営業・広報により多くの来場者を集客した点が評価できる。企画展の成果に牽引された結果、被災前の事業実績は良好であった。なお、被災により、「のらくろであります！ 田河水泡と子供マンガの遊園地ワンダーランド展」が開催途中で中止となり、その他予定していた6件の企画展は中止せざるを得ない状況となった。 ●岩波映画製作所出身の映画監督たちの作品を紹介する「岩波映画製作所出身の監督たち」(鑑賞者数716名)、1950年代から70年代頃の映画音楽に焦点をあて、現代音楽と日本映画の新たな表現への探求の軌跡を辿る「現代音楽と日本映画の交差点 1950s-1970s」(鑑賞者数755名)など、収蔵作品を中心に企画上映を実施し、特に後者については被災により予定上映回数4割しか上映できなかったが、750名を超える来場者があり好評であった。</p> <p>【事業成果②－被災後】 ●被災後に施設復旧・レスキュー作業を優先して実施している状況の中で、できる限り事業は継続する方針のもと、「第53回かわさき市美術展」については日程と場所を変更してミュージアム川崎シンフォニーホール企画展示室で開催したこと、及び昨年を約80点上回る315点の応募があった点は評価できる。 ●被災後の施設復旧・レスキュー作業については、市や外部支援団体等と調整しながらレスキュー作業に必要な設備等を早期に復旧させ、また令和2年3月までに目標としていた収蔵庫からの搬出に目途をつけたことについては評価できる。</p>					

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点	
収支計画・実績	効率的・効果的な支出	計画に基づく適正な支出が行われているか	8	4 (H30: 4)	6.4	
		支出に見合う効果は得られているか				
		効率的な執行等、経費削減の具体的な取組は為されたか				
	収入の確保	計画通りの収入が得られているか	4	4 (H30: 4)	3.2	
		収入増加のための具体的な取組が為されているか				
	適切な金銭管理・会計手続	収入と預かり金等を区別し、適切に管理を行っているか	4	3 (H30: 3)	2.4	
		事業収支に関して適正な会計処理が為されているか				
	(評価の理由)					
	<p>【効率的・効果的な支出①－被災前】 ○ミュージアムショップの売り上げが予算を大幅に上回り(予算比で17,220千円増)仕入れが増えた事により、ミュージアムショップ事業費支出が予算比で12,917千円の増となったが、総合的に見ると支出に見合う観覧料・ショップ収入を得た点が評価できる。 ○企画展事業の収入は予算比で10,945千円増となったが、企画展事業費は予算比で588千円の減となり、より少ない経費で予算を大幅に上回る収入を得た点が評価できる。 ○川崎記者クラブへの報道投込による新聞掲載や市内小・中学校へのチラシの配布だけではなく、市政だより、市内広報掲示板・広報コーナー、市ホームページ、かわさきイベントアプリへの掲載等、本市が持つ広報媒体を積極的に活用するとともに、公式ホームページ及びブログの更新や、ツイッターとフェイスブック、インスタグラムなど多様な媒体を活用し、かつ経費がかかからないながらも高い効果が見込める広報に努めた。 ○設備等の不具合事項を修繕計画表にて洗い出し、市との定例会議等で協議・検討したうえで、消防設備や空調設備等、市民利用に影響が大きい案件から優先的に修繕を実施することで、修繕費の効率的な執行に努めた。 ○7月に武蔵小杉駅こすぎコアパークで開催された「こすぎ盆踊り大会2019」にて、来場者がうちわを持ち歩くことにより告知効果を得ることを目的に、「なばたとしたかこびとづかんの世界展」、「妖怪／ヒ展」の告知うちわを各2,000枚、合計約4,000枚を配布した。</p>					
	<p>【効率的・効果的な支出②－被災後】 ●「かわさき市美術展」の過去出品者に対し、応募要項チラシを直接郵送するとともに、過去出品者が多い地域のみを対象とした同チラシの新聞折込を実施するなど効率の良い告知により、応募数が昨年を大きく上回る結果となった。 ●被災後は、指定管理業務の免除により経費が減少した分と、施設の復旧や被災収蔵品レスキュー作業による費用の増加を精算した結果、電源復旧などの作業環境の確保・整備や、館内の修繕など大幅な費用増となったが、これらを着実にを行い、収蔵庫からの搬出に目途をつけたことは、支出に見合う効果があったと言える。</p>					
<p>【収入の確保①－被災前】 ●岩合光昭写真展「ねこづくし展」の高い集客力により、9月までの企画展全体の観覧料収入が予算比で10,945千円の増となった。 ○ミュージアムショップでは、企画展や映画上映に関連した書籍や雑貨、障害者福祉施設の手作り雑貨、「かわさき名産品」や地元企業の製品、フロンターレグッズなど、館の企画と連動した商品や川崎ゆかりの商品を取り揃えている。特に岩合光昭の写真展「ねこづくし展」、「なばたとしたかこびとづかんの世界展」のグッズ売上が好調で、上半期で24,120千円を売上げ、予算比17,220千円増となった。</p>						
<p>【収入の確保②－被災後】 休館中のため指定管理事業に係る収入なし。(個人、法人による寄附合計約3,000千円あり。)</p>						

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
サービス向上及び業務改善	適切なサービスの提供	指定管理業務や自主事業が仕様書や事業計画等に基づいて適切に提供されたか	12	4 (H30: 4)	9.6
		基本理念等に基づき、適切なサービスが提供されたか			
		利用者への情報提供を適時かつ十分に行っているか			
		サービスの利用促進への具体的な取組が為されているか			
		新規及びリピーター確保に向けた付加サービスの取組が為されているか			
	業務改善によるサービス向上	実施計画と実際のサービス提供に「ずれ」が生じている場合、原因究明に必要な取組が為されているか	6	3 (H30: 3)	3.6
		業務改善が必要な場合に、現状分析、課題把握、改善策の検討と実施が行われているか			
		業務改善の取組によって具体的な効果があらわれたか			
	利用者の意見・要望への対応	利用者ニーズの把握に努め、それを事業や管理に反映させる取組が為されているか	6	3 (H30: 4)	3.6
		意見・要望の収集方法は適切だったか(十分な意見・要望を集めることができたか)			
		利用者からの苦情や意見に対して、迅速かつ適切に対応しているか			
	(評価の理由)				
<p>【適切なサービスの提供①－被災前】 ○市民ミュージアムの活動に対する関心を幅広く呼び起こす教育普及事業として、博物館、美術館の複合施設という館の特性を生かし、古代から近代までの多彩なテーマで約50件のワークショップや講座を企画し、夏休みには、親子向けのイベントを多数企画した。また、企画展に合わせた独自のワークショップ、学芸員による市民ミュージアム講座、映像ホールでのコンサートなども実施した。 ○市民ミュージアムの展示、収蔵品、研究成果等を活用した事業のうち、小学4年生の見学を受入れた社会科教育推進事業は、市内22校が来館した。 ○新聞・雑誌・市政だよりへの掲載、公共機関・学校等へのパンフレットの配布、屋内外への看板設置、交通広告やホームページ・ブログ等、多様な媒体を活用した広報を展開するとともに、SNSにおいては、ツイッターから278回、フェイスブックから116回、インスタグラムから24回の情報発信を行い、年間フォロワー数はツイッターが561名の増、フェイスブックが224名の増、インスタグラムでは225名の増となった。 ○昨年度好評だった、夏休み期間中の土曜日等に2時間の開館延長(計4日間、閉館17時を19時に変更)を行った。 ○7月に武蔵小杉駅近くで開催された「こすぎ盆踊り大会2019」にて、来場者がうちわを持ち歩くことにより告知効果を得ることを目的に、「なばたとしたかこびとづかんの世界展」、「妖怪／ヒト展」の告知うちわを各2,000枚、合計約4,000枚を配布した。 ○常設展示室に、収蔵品を活用したマンスリー展示として季節に関わるミニ展示を実施し、五月人形や漁具などを時期に合った展示を実施した。 ○ライブラリーでは、「待ち」のライブラリーから、プレゼンするライブラリーをコンセプトに掲げ、新たに企画展関連図書コーナー、学芸員のおすすめ図書コーナー、おすすめビデオコーナーを配置し、企画展や常設展に連動した図書の紹介を行うなど活性化を図ったことにより、図書閲覧人数が9月時点で前年度と同程度となった。(平成31年/令和元年度:10,104人、平成30年度:10,748人)</p>					
<p>【適切なサービスの提供②－被災後】 ●社会科教育推進事業は、被災後、出張事業に切り替え、25校に対応した。 ●被災後に施設復旧・レスキュー作業を優先して実施している状況の中で、「第53回 かわさき市美術展」については日程と場所を変更してミュージアム川崎シンフォニーホール企画展示室で開催した。</p>					
<p>【業務改善によるサービス向上①－被災前】 ●これまで、企画展示室1及び2では、それぞれに個別の企画展を実施していたが、集客を見込める企画展に併せて、同時期に市民ミュージアムの分野を横断した収蔵品を活用した関連する企画展を実施(「ねこづくし展」と「ZooとArt色とカタチのどうぶつ展」、「なばたとしたかこびとづかんの世界展」と「妖怪／ヒト展」)することで、より多くの来場者に収蔵品を紹介することができた。</p>					
<p>【業務改善によるサービス向上②－被災後】 ●被災後は、外部団体からの技術的支援や協力を得て、約23万点の被災収蔵品レスキューの手順、方法などについて改善を加えながら確立し、効率的な作業を実施した。</p>					
<p>【利用者の意見・要望への対応①－被災前】 ○企画展アンケート(4,502件)、常設展アンケート(279件)、窓口、ご意見箱(68件)、の実施により、利用者の満足度やニーズ、意見・要望などを把握している。窓口やご意見箱に寄せられた意見に対しては、館長及び部門長で対応を協議・検討し、常設展・企画展アンケートに関しては職員全員で情報共有するとともに、必要に応じて朝礼で報告するなどしている。</p>					
<p>【利用者の意見・要望への対応②－被災後】 休館により利用に供しなかったが、寄附者からは、「1日も早い修復をお願いします。」、「台風以前よりも、さらに意義のある施設として復旧することを心より願っています。」などといった応援メッセージや御意見を多く頂いた。</p>					

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
組織管理体制	適正な人員配置	必要な人員(人数・有資格者等)が必要な場所に適切に配置されているか	6	3 (H30: 3)	3.6
	連絡・連携体制	所管課との連絡・連携が十分に図られているか			
	再委託管理	再委託先との連携調整が適宜・適切に行われ、業務の履行についても適切な監視・確認が為されているか			
	担当者のスキルアップ	業務知識や安全管理、法令遵守に関する研修が定期的に行われ、スタッフのスキルとして浸透しているか	2	3 (H30: 3)	1.2
	安全・安心への取組	事件・事故、犯罪、災害から利用者を守ることができる適切な安全管理体制となっているか(人員配置、マニュアル、訓練等) 緊急時に警察や消防など関係機関と速やかに連携が図れるよう、連絡体制を構築し、定期的に情報交換等を行っているか	4	3 (H30: 3)	2.4
	コンプライアンス	個人情報保護、その他の法令遵守のルール(規則・マニュアル等)と管理・監督体制が整備され、適切な運用が為されているか	4	3 (H30: 3)	2.4
	職員の労働条件・労働環境	スタッフが業務を適正に実施するための、適切な労働条件や労働環境が整備されているか			
	環境負荷の軽減	環境に配慮した調達や業務実施が行われているか	2	2 (H30: 3)	0.8
(評価の理由)					
<p>【適正な人員配置】 ○学芸員の退職が見られ、また、経験年数が浅いスタッフもいるため、労働条件や労働環境の整備などに努め、安定的な運営につながるよう、効果的な組織体制の維持に期待する。 ●被災後の組織、人員体制を速やかに整え、収蔵庫からの搬出や応急処置などの進捗状況に合わせ必要な体制を確保し、的確にレスキュー作業に対応した。</p> <p>【連絡・連携体制】 ○被災前までは、所管課との定例会議を月1回実施し、事業の実施状況や運営上の課題等に関する情報共有及び各種調整を行うなど、より良い施設運営に向けた連絡・連携体制が十分に図られている。 ●被災後は、現地対策本部会議を毎日開催し、レスキュー作業の進捗や課題等について所管課と調整を行うなど、被災収蔵品レスキューの取り組みに関する連絡・連携体制が十分に図られている。</p> <p>【担当者のスキルアップ】 ○運営スタッフのホスピタリティ向上を図るため、入社時の接遇マナー研修や、企画展ごとに学芸員の解説による知識取得研修を実施した。学芸スタッフが外部研修会に参加して知識向上を図ったほか、部門長以上は、ハラスメント対策の講義に参加した。</p> <p>【安全・安心への取組】 ○防災マニュアルを改定し、緊急連絡先の見直しを実施するとともに、防災・避難誘導訓練及びAED講習を2回ずつ実施し、災害発生時に適切に対応できる体制を整えている。 ●被災当日は休館とし、必要最小限の設備担当による管理体制を取ったことにより、災害から利用者を守る適切な安全管理を遵守することができた。 ●被災前から市と情報交換を積極的に行ったことで、被災翌朝から消防等の関係機関と連携し復旧作業を開始することができた。</p> <p>【環境負荷の軽減】 ●前年度まで実施していた館内のLED化は実施できなかった。また、被災後はレスキュー作業を優先する中で、環境に配慮した取り組みを積極的に実施できなかった。バックヤードや職員専用の階段等のこまめな消灯、平日のエスカレーターの停止等、消費電力の低減と環境負荷の低減を図るとともに、PPCにはエコ紙を採用し消耗品の調達はエコ商品を優先した。</p>					

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
適正な業務実施	施設・設備の保守管理	安全な利用に支障をきたすことのないよう、施設・設備の保守点検や整備等を適切に実施しているか	18	4 (H30: 4)	14.4
	管理記録の整備・保管	業務日誌・点検記録・修繕履歴等が適切に整備・保管されているか			
	清掃業務	施設内及び外構の清掃が適切に行われ、清潔な美観と快適に利用できる環境を維持しているか			
	警備業務	施設内及び敷地内の警備が適切に行われ、事件・事故・犯罪等の未然防止に役立っているか			
	外構・植栽管理	外構の植栽を適切に管理(草刈、剪定、害虫駆除等)しているか			
	備品管理	設備・備品の整備や整頓、利用者が使用する消耗品等の補充が適切に行われているか			
	収蔵品管理	収蔵品は仕様書等に基づき、適切に保存・管理されているか	6	3 (H30: 3)	3.6
(評価の理由)					
<p>【施設・設備の保守管理①－被災前】 ○施設設備の老朽化が著しい中で、保守点検に基づく施設等の不具合事項を修繕計画表にて洗い出し、市との定例会議で協議・検討したうえで、不具合箇所の応急処置を速やかに行うとともに、市民利用に影響が大きく優先順位の高いものから施設等の修繕を実施している。 ●開館から30年を経過し経年劣化により館全体で頻発する雨漏りへの対応、企画展示室2の可動壁面の壁紙の張替え、トイレの設備の修繕など、日頃から多くの課題を抱えている施設・設備の維持管理を徹底して行い、利用者の安全、快適性を確保した。</p> <p>【施設・設備の保守管理②－被災後】 ●被災後は、施設電源復旧のための仮設キュービクル設置、被災収蔵品の搬出のためのエレベーターの復旧、被災収蔵品を凍結保管するための冷凍コンテナの設置、排水ポンプの修繕・更新、地下の特別清掃など、収蔵品レスキューのために必要な施設・設備の復旧などを実施した。</p> <p>【清掃業務】 ○日常清掃、定期清掃により清潔な美観と快適な環境を維持している。</p> <p>【警備業務】 ○常駐警備(24時間×1ポスト、日勤×1ポスト)、機械警備、巡回警備を適切に実施し、事件・事故・犯罪等を未然に防止できている。</p> <p>【収蔵品管理①－被災前】 ○適正な温湿度管理を実施するとともに、週に1度収蔵庫内のロガーのデータを確認している。保管資料の燻蒸や、毎月の環境測定にて、害虫・浮遊菌・酸性値等をモニタリングしている。</p> <p>【収蔵品管理②－被災後】 ●収蔵品管理台帳のデータベース化について、被災後は、収蔵庫から出庫した収蔵品の確認を行うため出庫管理表を作成し、収蔵庫からの搬出・応急処置を行いながら被災収蔵品の確認を優先して実施した。</p>					

4. その他加点

分類	項目	着眼点	配点	評価段階	評価点
その他加点	市の政策課題への取組	例) 第三者へ一部の業務委託を行う際、市内中小企業者の受注機会の確保・拡大 地域包括ケアシステムの構築に向けた取組への協力 など	5	3 (H30: 3)	3
	(評価の理由)				
<p>【被災前】 ○清掃業務、警備業務などの施設管理業務において市内中小企業を活用している。 ○障害者、高齢者、子どもや子ども連れの方など、すべての人が身近に文化芸術に触れ、参加できる14件のバリアフリープログラムを実施。「視覚障害者とつくる美術鑑賞ワークショップ」では、視覚に障害の有無に関わらず、13名が参加し、作品の色やかたち・大きさ・感じたことや印象等を自由に語り合い、参加者同士が新しい美術の楽しみを発見することを目的として開催するなど、本市が取り組むかわさきパラマウントに資する取組とすることができた。 ●経済労働局主催の「2019 かわさきアジアフェスタ」への協賛を実施し、スタンプラリーの賞品として「岩合光昭写真展 ねこづくし」招待券を40枚提供した。</p> <p>【被災後】 ○清掃業務、警備業務などの施設管理業務において市内中小企業を活用している。 ●令和元年東日本台風による想定外の内水氾濫により地下収蔵庫が浸水し、施設及び収蔵品に甚大な被害が発生したが、指定管理業務については市と覚書を締結し、収蔵品レスキューを最優先で取組むこととした。これにより、被災以降は、仮設電源設備の設置、収蔵庫内のアクセスの確保、冷凍コンテナの設置などの施設復旧作業、及び収蔵庫からの被災収蔵品の搬出、応急処置等の収蔵品レスキュー作業を実施した。</p>					

5. 総合評価

評価点合計	74.6	評価ランク	B
-------	------	-------	---

(H30: 76.2)

(H30: B)

6. 事業執行(管理運営)に対する全体的な評価

川崎市市民ミュージアムは、「考古、歴史、民俗、美術、映像等に関する資料及び作品について収集、展示、調査研究等を行うこと等により、市民の観覧、学習、研究等に資するとともに市民相互の交流を推進し、もって市民の教育、学術及び文化の発展に寄与する」ことを目的として設置した博物館・美術館の複合施設である。

本施設は、昭和63年11月に開館し、平成29年度に市の直営管理から施設管理・学芸業務ともに指定管理者制度を導入した。

指定管理者を募集するにあたり、本市が仕様書で「指定管理者に求めること」として、①「民間事業者としての柔軟な発想及び獨創性、さらにはこれまで蓄積してきた研究成果を引き継ぎ、サービスの向上や魅力ある企画の実現など、事業の充実と新たな来館者の創出に向けて創意工夫するとともに効率的な運営に努めること」、②「指定管理者には優れたマネジメント力、博物館・美術館の専門分野に関する豊かな知識と高度の専門性の継続と蓄積」、③市文化施設の管理運営にあたる者として、特定の利益や価値に左右されない、高い公益性と信頼性」の3点を示していることに加え、④覚書において「市と十分に調整を図りながら収蔵品レスキューに最優先で取り組むこと」としていることから、全体評価に当たってはこれら4点の視点に基づき評価する。

①9月までの累積利用者数は166,430人となり、前年度の約10,000人減であったが、前年度の年間総利用者数302,999人の過半数を超えていることを考慮すると、岩合光昭の写真展「ねこづくし」、「Zoo(ずーつ)とArt(あーと) 色とカタチのどうぶつ展」、「なばたとしたかこびとづかんの世界」、「現代音楽と日本映画の交差点 1950s-1970s」など、指定管理者ならではの時宜を得た企画や、他にはない初の取組、効果的な営業・広報の取組が、結果として集客につながったものであると評価できる。また、収支実績においても、計画以上の事業支出があったものの、支出に見合う観覧料収入を確保しており、効率的な運営がされたものと評価できる。

②ミュージアムが蓄積してきた豊富な収蔵品を活用した企画展を開催し、企画展示室だけでなくアートギャラリーや映像ホール等でも企画を連動させるなど、ミュージアムが持つ多様な機能を活用しながら広く市民に公開するとともに、作家本人によるサイン会をはじめ、学芸員によるギャラリートークや専門家を招いた講演会等、教育普及事業の実施により作品への理解や関心を深めるための取組を行った。

③かわさき市美術展や教育普及事業の活性化に向けた様々な取組等、集客事業に偏重することではなく、地域との連携や市民相互の交流の促進について、指定管理者の創意工夫が発揮されている。

④さらに、被災後の施設復旧・レスキュー作業については、市や外部支援団体等と調整しながらレスキュー作業に必要な設備等を早期に復旧させ、また令和2年3月までの目標としていた収蔵庫からの搬出に目途をつけた。

以上のことから、令和元年度は適正に指定管理業務が実施されたものとする。

7. 来年度の事業執行(管理運営)に対する指導事項等

指導事項

○学芸員の入替えが多く経験年数が浅い職員もいるが、労働条件や労働環境の整備などに努め、安定的な運営につながる効果的な組織体制の維持に取り組むこと。

要請事項

- 市と十分に調整を図りつつ、また、外部支援団体などからの協力を得ながら、効率的・効果的な被災収蔵品レスキュー作業を継続して進めていくこと。
- 指定管理期間の終期までに収蔵品管理台帳のデータベース化を完成させるべく、積極的に取り組みを進めていくこと。
- 開館以来継続的に行ってきた地域の歴史・伝統・文化に関する資料の収集・調査研究活動を進展させるとともに、市内の他美術館等と連携・協力しながら、被災を免れた収蔵品も含め、修復が完了した作品などを紹介し、被災収蔵品レスキューの成果を市民等と共有するなど、ミュージアムが有する豊富な資産を活用するコレクション展を開催すること。開催にあたり、新型コロナウイルス感染症対策もふまえて、ホームページ等のオンラインも含めた開催とすること。